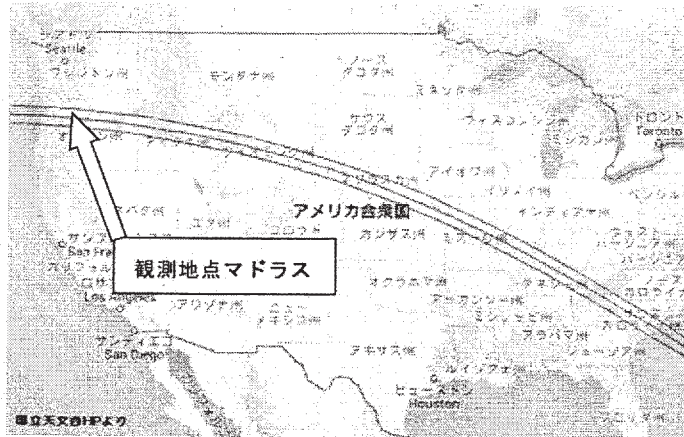


アメリカ大陸横断皆既日食観察探検隊報告 Vol. 1



思い起こせば 2009 年 7 月 22 日、鹿児島島の南、屋久島での皆既日食観測において、滞在の 5 日間ほぼ晴天が続いたにもかかわらず、その皆既日食があった午前中のみ大雨という不運に打ちひしがれた。厚い雲にさえぎられながらも、皆既によって月の本影錘の中に入ったため真っ暗になった島の南の尾の間という観測地点で「この雲の上にコロナが輝いているのか、見てえ〜」と叫んだのが 8 年前だった。男は激しくリベンジを誓い、今こうして約束通りはるばるアメリカまで皆既日食の観測にやってきたのだ。男は腕を組み、白み始めた地平線を見つめながら「Remember YAKUSIMA」と低くつぶやいた。午前 2 時 30 分にポートランドのホテルを出発する時に受け取った紙箱の BTL サンドとバナナ、ポテトチップスの朝飯を立ったまま食う。(男とはわたくしです。念のため)



機材をセットし、その時を待つ

2017 年 8 月 21 日午前 4 時 23 分、オレゴン州マドラスでは東の地平線が少し明るくなってきたが、月のない空は闇に包まれ星が輝いていた。マドラス高校のグラウンドの露に濡れた芝生の上に立ち尽くす男は寒さに震えた。ここは標高 683m、気温は 12 度、薄着で来たことを後悔しつつ、三脚と撮影機材を設置し始めた。「あと 5 時間後にはすべてが終わっている。なにもかも……泣くか笑うか、勝負だ」

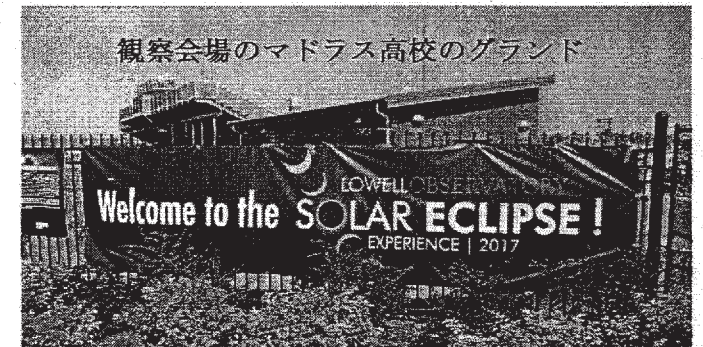


今回のミッションでは、同行している息子 1 号 (25 歳) は重量 20kg の赤道義、三脚、TAKAHASI 製の単焦点望遠鏡のセットを組み立て、コロナのクローズアップ写真を狙う。息子 2 号 (20 歳) は高級一眼デジカメを三脚にセットし、第 1 次接触 (部分日食始まり) から皆既を経ての第 4 接触 (日食終了) までをインターバル撮影する予定である。そして私は、それらを撮影しながら大騒ぎして取り乱し、あるいは呆然

として立ち尽くす予定の我々の様子を背後に設置したデジカメで動画撮影をしながら、同時に三脚に固定したビデオカメラで皆既の様子を拡大撮影もする。そして手持ちのデジカメで刻々と変わる周辺の風景や人々の阿鼻叫喚を撮影しながら、スバヤク首に下げた双眼鏡で、コロナとプロミネンスを観察するという、千手観音と私にしかできない高度にして緻密なミッションを遂行する。その割には、「皆既は何時やった?」「今日は 22 日やな」などと、かなりいい加減な面があることも否めない探検隊であった。

皆既の時間は 2 分 3 秒 6。つまりわずか 123 秒余りである。このために日程を調整し、重要な仕事を人に丸投げし、息子にパスポート取得させ、ツアー会社と折衝し、定期預金を解約し、旅行鞆を買い、テロを警戒しつつ飛行機を乗り継ぎ、バスに揺られて (この 2 泊の旅の間に 20 時間以上乗っていた) は〜るばる来たのである。もし雨でも降ろうものなら、私は誰を呪えばよいのか……。やがて夜が明けて陽が昇るとともに高い空に薄雲が西から広がり始めた「まずい、まずいぞ、このまま雲が濃くなると、コロナが見えなくなる!」

太陽は徐々に高度を上げてゆく「間もなく第 1 接触です」ツアーのサポーターがメガホンで伝えている。午前 9 時 6 分 52 秒、部分日食が始まった。日食グラスで観察すると太陽の右上が黒く欠けている。「始まった、もう止まらん。曇るなよ、曇るなよ」このマドラス高校のサブグラウンドは、H 交通社の 6 つのツアーの 100 人ほどの日本人だけで貸し切っており、サッカーコートが 2 面もとれるほどの広さにまばらに人が散らばっている。道路を隔てたメイングラウンドにはアメリカンフットボールのコートと 400 メートルのトラックと観客席が備えられている (これが公立高校だなんて日本の常識では全く考えられない設備だ)。



そして多数のアメリカ人で混雑しており、入場料も必要である。ホットドッグやポップコーン、日食 T シャツが売られていて、まるでお祭り騒ぎになっている。10 時を過ぎて部分食が進み、少し辺りが暗くなったように感じる。また、気温も下がっているのがはっきり感じられる。「いよいよ来るぞ、どうする?」予想通り動揺するが、まだ周囲の人々はこのんびりしており、ひたすら待つのみである。その時太陽に向けて下から上にジェット機が飛んでいるのが見えた、そしてそのまま太陽の前を通過して行った (ようだ)。眩しさで見失ってしまったが、何だったのだろうか。航空機による日食観察も行われているので、それだったのかもしれない。さらに小さな気球が太陽のすぐそばをゆっくり上昇していく。これはパラシュートと観測装置が付いており、気象観測用のラジオゾンデのようだった。「おいおい、皆既に重なってしまったらどうするねん」全くいろんなことが起こる。たのむ気持ちよく見せてくれ。

「第 2 接触 5 分前です」先ほどからサポーターがしつこくカウントダウンを繰り返している。日食フィルターを通してカメラで拡大してみると、いよいよ部分食は針のような三日月になっている。心配した薄雲はほとんど消え、完全なコンディションである。「10 秒前!」心拍数がもう 150 を超えている。⇒ To be continued //